

国語 第1学年 おもちやと おもちゃ

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。拗音の小さい文字を、音のまとまりと対応させて書く。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「おもちゃと おもちゃ」 教材名「おもちゃと おもちゃ」

2 単元の目標

拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。〔知識及び技能〕(1)ウ)

語と語との続き方に注意することができる。(B(1)ウ)

拗音の小さい文字を、音のまとまりと対応させて書く学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①拗音の表記、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①拗音の小さい文字を、音のまとまりと対応させて書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

拗音の小さい文字を、音のまとまりと対応させて書く。この教材では、拗音の音と表記、語の意味を確かめた自作文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教科書の例の穴埋めを転載せず、既習語のカードで音を分ける。小さい文字の位置と大きさを見本で確かめる。想定する難しさは、拗音を表す文字を落とす、音と表記を対応させずに写す。評価では、語と語との続き方に注意しているかを、拗音の音と表記、語の意味を確かめた自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。独自例「きやく・きやく」を声に出して意味を確かめ、文字の大きさと音のまとまりを比べる。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○独自例「きやく・きやく」を声に出して意味を確かめ、文字の大きさと音のまとまりを比べる。文で使って相手に読んでもらい、伝わり方を確かめる。読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

語と語との続き方に注意することができる。(B(1)ウ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。

○「小さい文字を大きくすると、同じ音になりますか」

【めあて】拗音の小さい文字を、音のまとまりと対応させて書く。

予想される児童の反応：・小さい文字まで合わせて一つのまとまりで読む。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「小さい文字を大きくすると、同じ音になりますか」

独自例「きゃく・きやく」を声に出して意味を確認め、文字の大きさと音のまとまりを比べる。文で使って相手に読んでもらい、伝わり方を確認める。

読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・小さい文字まで合わせて一つのまとまりで読む。

・大きく書くと違う読み方になる。

指導上の留意点：教科書の例の穴埋めを転載せず、既習語のカードで音を分ける。小さい文字の位置と大きさを見本で確かめる。

想定する難しさ：拗音を表す文字を落とす、音と表記を対応させずに写す。

評価では、語と語との続き方に注意しているかを、拗音の音と表記、語の意味を確かめた自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 語と語との続き方に注意している。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

拗音の音と表記、語の意味を確かめた自作文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。

予想される児童の反応：・大きく書くと違う読み方になる。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「小さい文字を大きくすると、同じ音になりますか」。中央は、拗音の音と表記、語の意味を確かめた自作文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

